

最近では街中の至るところにコンビニエンスストアがあり，コピー機を設置し，各種コピーができるようになりました。通常はA4サイズ1枚が白黒で10円，カラーでも60円程度の代金となっています。

これは商売としての**販売価格**ですから，その原価はもっと安いものといえますが，会社の中で，普段なにげなく使っているコピーにはいくらかの費用がかかっているのでしょうか。

販売価格

実は，たいへんなコストがかかります。職場の賃率を60円とすれば，**コピー1枚にかかるコスト**は，およそ次のようになります。

コピー1枚に
かかるコスト

会社でコピー機を置いている場所は，自分の座っている場所からはたいてい離れた場所であることが多いと思います。その場合，まずコピーしたい書類を持って，コピー機の所まで歩いて行きます。コピー機に原紙をセットして，ボタンを押し，1枚のコピーをとります。コピー機にセットした原紙を取り出し，自分の席に戻ってきます。

さて，この一連の動作をすべて時間にすると，どのくらいの時間がかかるのでしょうか。例えば2分かかるとすれば，この人のコピーをする作業には，**2分×60円=120円**がかかっていることとなります。

街のコンビニと同じ代金にするためには，カラーで1分以内，白黒だと10秒以内の一連の作業をやらなければならないこととなります（賃率の中には，電気代や紙代は経費としてカウントされていますので計算には入れません。また，コンビニにはなぜ10円や60円でできるのか考えてみてください）。

すなわち，たかが1枚のコピーでも，それにかかるコストは120円にもなることを考えると，必要のないコピー，コピーのムダは大きな損失コストになり，会社の収益を圧迫することになることが理解できると思います。

もっと厳しい言い方をすれば，その1枚のコピーによって会社の売上げを120円だけ増加させなければ，そのコピーによる**生産性**はマイナスになるという事実です。

生産性

ある会社の研修会でこの話をしたところ、一人の管理者が「1枚のコピーをするのにそんなにコストはかからない」と言っていました。その管理者は、人の工数（人の手間）を無視し、単に紙代と電気代そしてコピー機の費用しか考えていなかったのです。

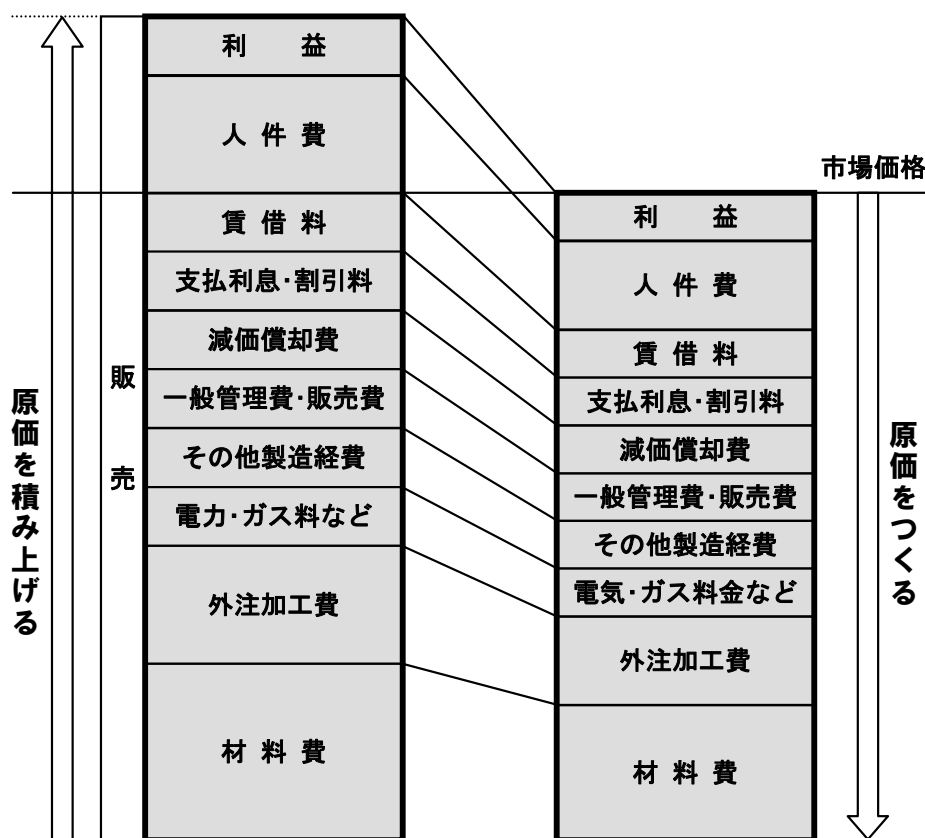
人はいつもいるのだから「使わないと損」ということらしいのですが、ムダなコピーをする余裕があるならば、他の人の仕事を振り分け、**全体の人数を削減する**ことを考えるべきなのです。まして、管理者ならばこのような損得が即座に頭にひらめくようであればなりません。

会社では、どんな仕事にも「人間」が介在しており、コストの中で人にかかるコストが最も大きな費用であることを忘れてはなりません。

全体の人数を削減する

攻めのコストダウンに取り組む

コストは発生するものと考えて、原価を積み上げていくやり方は、成り行きの管理以外の何物でもありません。市場価格にあわせて、「原価をつくる」方式の攻めのコストダウンに取り組む必要があります。「許容費用」を決めて、改善していくことは、後向きのケチケチ運動でなない地を出さねばなりません。



コストに一番敏感であるべき管理者が、ムダをつくり出し、コストを押し上げていることがあります。

極端な例は、職場で行われる「会議」です。職場のコミュニケーションを図るために、という名目で毎週月曜日に、全員集合して「会議」なるものを開催しています。この「会議」は連絡会議として、なんとなく慣行で続けられているものだとしたらどうでしょう。

開催の理由である「コミュニケーションを図る」ことは確かに必要です。「会議」は管理者としての管理手法の一つとして認めてもよいのですが、その開催によっていくらのコストがかかっているかを理解しておかなければなりません。

例えば、職場の10人の人が集まり、1時間の会議をしたとしましょう。この章で扱っている他の計算と同様に賃率を60円とすれば、そのコストは、

$$10人 \times 60分 \times 60円 = 36,600円$$

の費用をかけていることになります。それを毎週開くとすると、

$$36,000円 \times 4回 = 144,000円$$

の費用がかかります。

しかも、その会議の中身が単なる情報伝達や他人の仕事の報告だったり、結局は収益を改善するための会議が、逆にコストを圧迫する結果になってしまいます。

厳しい言い方をすれば、会議を開催することで、なにがしかの見返りがない場合は、単にお茶飲み会であり、ムダな時間（コスト）を費やしているだけです。職場内のコミュニケーションをとる方法などは、他にいくらでもあります。

会議

